

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	・冬の観光繁忙期を迎える、海外路線の便数増加が見込まれることから、インバウンドの増加が期待される。ただし、日中関係の問題により、中国路線の減便、運休の継続などの影響が出始めていることが懸念材料となっており、早期の関係修復が望まれる。
		タクシー運転手	・これから年末の忘年会シーズンを迎える、1年間で最もタクシーの売上が良い時期となる。当社は乗務員の採用が順調なことから、前年から20%以上の売上増加を期待している。
		観光名所（従業員）	・中国からの冬季限定チャーター便の運航が中止となったものの、その影響を考慮しても、国際線の運航便数が過去最高だった前年を上回る計画となっていることから、当地の経済効果への期待は大きい。また、インバウンドについては、富裕層の個人客が増えていることから、飲食や物販において、キャラクターグッズを筆頭に高単価商品がよく売れている。これらのことから、今後の景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・新政権になり、積極財政への転換が進むことで、景気が上向くと期待している。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末を控えていることもあり、今後、客の消費活動がやや活発になると期待している。
	○	一般小売店（経営者）	・政治の不透明感が薄れていることで、これから景気が上向くことを期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	・12月には忘年会があり、年明けには新年度に向けての動きが出てくることになる。これまでの流れから、スーツなどの需要が増えてくると期待している。
	○	家電量販店（経営者）	・エアコンの2027年問題への対応で、エアコンの需要が旺盛である。また、省エネ型給湯器などの省エネにつながる商品の販売も堅調に推移している。法人を中心に、蛍光灯の製造終了に伴うLED化への対応相談も増えている。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・例年、年が明けると車両販売の動きが活発になることに加え、新型車の発売が予定されていること、様々な販売施策を実施することから、今後の景気は上向くことになる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・年末を控えて、消費が上向く時期であり、年が明けてから、新車購入に向けた動きが出てくることを期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・今後については、新型車の投入が予定されているため、景気はやや良くなる。ただし、生産台数に限りがあり、予定台数に達するとすぐに受注停止になるとみられるため、メーカーの生産体制が変わらない限り、景気が大きく上向くことは考えにくい。
	○	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・ガソリンや軽油の暫定税率廃止に伴い、価格が低下することから、値下げ効果が生じることを期待している。
	○	スナック（経営者）	・日々の生活も仕事も状況はほとんど変わっていないものの、新政権が強い意志で国のために努力していることから、今後の景気が上向くことを期待している。
	○	観光型ホテル（経営者）	・冬の観光シーズンに入ることから、インバウンドを中心に宿泊客が増加することが見込まれる。
	○	タクシー運転手	・乗務員不足に加え、例年よりも雪が少ないことから、余り大きな期待は持てないものの、今後、忙しくなることを期待している。
	○	通信会社（企画担当）	・新しい通信規格に対応した端末への移行が追い風となり、今後の集客を期待できる。ただし、物価上昇の影響から、安価な機器の販売は期待できるものの、高額な機器の販売は余り期待できないため、大幅な売上増加までは考えにくい。
	○	美容室（経営者）	・ガソリン以外は価格の高止まり又は値上げが進んでいるものの、年末年始を迎えて、ふだんよりも売上が増えることを期待している。
	○	住宅販売会社（経営者）	・新政権の積極財政方針により、今後の景気はやや良くなると期待している。

<input type="checkbox"/>	百貨店（販売促進担当）	・本格的な冬を迎えることから、客足が伸びている。ただし、売上を伸ばしているカテゴリーは食を中心とした生活必需品にとどまっている、し好性の高いブランドショップや時計、宝飾などは厳しい状況が続くとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・景気回復に向けての具体的な動きがまだみられないため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・インバウンド需要の不透明感などもあって、先行きに不安を感じて、消費を控える傾向が出てくることが懸念される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響が懸念されるものの、ガソリンの暫定税率の廃止など、新政権での経済対策の内容が明らかになり始めていることから、消費行動が促進されることを期待している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（従業員）	・インフレが進んでいることから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	・ガソリンの暫定税率廃止のよう、物価高対策として効果のある施策もみられるものの、食費や光熱費が家計支出に占める割合が大きいことから、食料品の価格や光熱費が下がらない限り、衣料品への支出が増えることは考えにくい。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・年末年始の売上にはある程度期待できるが、その後は来客数、販売額が落ち込むことになる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・決して景気が良いわけではなく、主要車種のマイナーチェンジ、フルモデルチェンジなどの予定も少ないため、今以上に販売量が増えることは考えにくい。そのため、今後も厳しいまま変わらない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新車の価格が上昇していることから、乗換えを検討するよりも、車検を受けて車を長く乗ることを考える客が増えている。また、新型車が発売されたとしても、系列メーカーでは4WDの電気自動車を展開していないため、雪の降る地域では販売に難しい面がある。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・物価高に加え、暖房費が家計を圧迫するという降雪地域ならではの事情があるため、今後も買い控えが続くことになる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・薬局の役割として、客が健康相談を期待している状況がうかがえる。実際に、漢方薬などの相談に対応することはあるものの、時間を掛けて対応しても、相談後に病院で薬を処方してもらうケースが増えており、心が折れる場面が増えている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・日中関係の影響で、ホテルでは予約キャンセルなどの動きがみられるものの、全体的には冬期間の予約が順調なことから、飲食店にも多少の恩恵が生じることを期待している。今冬は、例年並みの売上をどうにか維持できるとみている。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・景気がなかなか上向いてこないことから、今後、売上の伸びが鈍化していくとみられる。原材料の値上げが続いていることもマイナスである。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・中国人観光客の動向が不透明ではあるものの、おおむね堅調に推移すると見込まれる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・現状と変わらずやや悪い状態が続くことになる。特に円相場が円高傾向にならない限り、今後の景気回復は難しいと見込まれる。一方、日中関係の影響については、インバウンドや中国行きの旅行を取り扱っていないため、ほとんどないものとみられる。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・生活必需品や一般的なサービスに係る費用が段々と値上がりしていることで、家計を圧迫している。一部のレジャー関連については、ガソリンの値下げがプラス要因となるものの、インバウンドの主力である中国人観光客が減少することで、観光関連業界としてはかなり厳しい年末年始を迎えることになる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・年末の繁忙期を迎えるに当たって、消費行動に結び付くようなプラス材料が現れることを期待している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・イベント関連での予約は例年並みとなっているものの、観光客の予約がやや減少している。また、料金の改定により、一時的な利用客の減少も見込まれる。天候要因による利用客の増加は見込めるものの、それ以外の好材料がないことから、全体的には横ばいでの推移となる。

□	観光名所（職員）	・景気が上向くような状況ではないことから、今後も横ばいでの推移となる。
□	住宅販売会社（従業員）	・土地価格や建築単価の高止まりにより、購入価格が客の想定を超えており、住宅ローン金利が上昇傾向にあることから、客の購入意欲が低下しており、今後も同様の状況が続く。
▲	商店街（代表者）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けによる影響を懸念していたが、中国国内の景気減速の影響もあって、今年の春頃から、中国人観光客が減少傾向にあったことから、今のところ大きな影響はみられない。また、データからは、個人客が観光に来ていることもうかがえる。ただし、今後、香港においても、何らかの動きが出てくることになれば、大きな影響が生じることが見込まれるため、動向を注視している。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・冬の観光シーズンを迎えることから、国内客は増えることになる。インバウンドは、本来であればウィンターシーズンに客が増える傾向にあるが、これから中国便の減便や休止が増えてくることになれば、下振れすることになる。ただし、中国人観光客による売上は、爆買いがあった頃こそ3割以上のシェアを占めていたが、最近は1割弱にとどまっていることから、そこまで大きな影響は受けないとみられる。
▲	スーパー（店長）	・日中関係が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・円安傾向が継続していることから、物価の安定には程遠い状況にある。今後の年末年始商戦も、価格競争の激化が見込まれるため、一段と厳しくなることが見込まれる。
▲	スーパー（役員）	・円安が進んでいることから、多くの食品メーカーにおいて、原材料の価格負担が増しており、来年も値上げしなければならないとの声が上がっている。物価上昇が続くことで、客の節約志向がますます強まることが懸念される。
▲	コンビニ（エリア担当）	・景気の先行きが不透明なことから、例年であれば、消費の増える年末においても、客の節約志向が続くとみられる。クリスマスや年末の予約商品の受注にも影響が及ぶことが懸念される。
▲	コンビニ（エリア担当）	・例年であれば、これからインバウンドが増加する時期だが、入込数の多い中国人の動向が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・物価高の影響に加え、当地の秋サケ漁が記録的な不漁となっていることから、今後、地域経済が大きく落ち込むことが懸念される。
▲	コンビニ（エリア担当）	・物価の上昇が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・販売の中心となる食料品について、10月に値上げが行われた商品が多く、いまだに値上げの動きが続いている。これから価格が下がるような見通しもなく、食料品の消費税引下げも見通しが不透明なことから、今後も厳しい状況が続くことになる。
▲	住関連専門店（役員）	・食料品などの値上げにより、一般消費者の節約志向が一段と強まるとしてみられるため、今後の景気はますます悪くなる。
▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・仕入先から、価格改定の連絡が来ていることから、この先の買い控えが懸念される。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・中国人観光客の動向が不透明なことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	旅行代理店（従業員）	・店舗への来客数は、今後も減少傾向が続くと見込んでいる。また、インバウンドによるWeb予約も当面は減少すると見込まれる。今後については、社会情勢に左右されることになるものの、補助金や賃上げによる効果は限定的とみられることから、景気の下向き傾向が続くことになる。
▲	タクシー運転手	・今後の景気はやや悪くなる。景気が上向くためには、政治情勢が落ち着くことが必要である。
▲	美容室（経営者）	・今後も物価の上昇傾向が続くとみられることがから、来店周期の長期化、メニューの変更などにより、美容関係の出費を控える傾向が続くことになる。
▲	美容室（経営者）	・客から、生活が楽になったといった話を聞くことがないため、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・冬期間に入ることで、天候の変化が激しくなり、安定した運航が見通せないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	商店街（代表者）	・今後については、ガソリンの暫定税率廃止に伴う価格低下に加え、冬期間の電気・ガス料金への支援拡充などが打ち出されているものの、物価高による生活への影響が大きいことから、今後の景気はやや悪くなる。また、当区域を訪れる来街者の多くが高齢者であり、積雪期間となることで外出機会が減ることもマイナス要因である。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・物価の上昇、国内経済の低迷、中国人観光客の減少などの不安要素が重なることから、今後の景気は悪くなる。
	×	百貨店（売場主任）	・インバウンドのうち、シェアの大きな中国人観光客の動向が不透明であり、今後、入込数が減少することになれば、大きな影響が生じることになる。
	×	スーパー（店長）	・これからますます寒さが厳しくなること、正月を控えていることから、客の財布のひもが固く、必要な物や安い物しか買っていない。客の買上点数は好調に推移しているものの、客単価の低い状況が続いていることから、今後の景気は悪くなる。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	・春節における中国人観光客の入込が落ち込むとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・インフレが進行している一方で、客の可処分所得が増えていないことから、客が住宅購入に充てる資金が減っている。スピード感のある物価高対策が打ち出されない限り、住宅市場の実需は減少の一途をたどることになる。
企業動向関連 (北海道)	◎	—	—
	○	家具製造業（経営者）	・新政権への期待感が高まっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・国土強靭化や食料安全保障を進める新政権の方針から、関連予算の拡充が見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（役員）	・年度内に完工予定の建設工事において、追加工事がこれから出てくることになるため、利益面での上乗せを期待できる。
	○	金融業（従業員）	・新政権の物価高対策が、消費マインドを改善すると期待している。ただし、これらの対策が、物価高の続く要因の1つとなる懸念もある。
	○	司法書士	・今後も、ガソリンの暫定税率廃止のように、所得の向上につながる政策が続くことで、景気が回復することを期待している。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新政権の経済対策によって、投資に向けた動きが進むことになる。少なくとも、投資に前向きな気運が高まると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・懸念事項はあるものの、国内の建設投資は引き続き堅調に推移すると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・年度末まで、既存市場の動きは前年を下回ると予測されるものの、官庁関連での受注増加が見込まれることから、全体では前年並みに回復することになる。
	□	農林水産業（経営者）	・農産物について、これまでの猛暑対策では対応できなくなりつつある。施策として、あらゆる手段を検討していく必要がある。
	□	食料品製造業（従業員）	・受注量について、今以上に増えるような要素が見当たらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・4月に価格改定を行ったこともあって、販売量が前年並みという状況は決して悪くない。しばらくはこうした傾向が続くことになる。
	□	金属製品製造業（従業員）	・新築住宅着工棟数の減少は、今後も続くとみられる。また、人口減少やカーボンニュートラルの推進による暖房負荷低減の流れも続くことから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	・今年度の受注額は既に目標を達成しているものの、来年度以降の見通しが不透明である。建設単価上昇や職人不足による入札不調が続出しており、順調とはいえない状況にある。
	□	輸送業（支店長）	・本格的な冬を迎えて、輸送需要が引き続き減少すると見込まれる。

	□	広告代理店（従業員）	・新政権の経済対策への期待はあるものの、日中関係の問題が観光業や水産業に悪影響を及ぼしそうな状況にあることから、全体ではプラスマイナスゼロで景気は変わらない。
	▲	食料品製造業（従業員）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響が出てくると見込まれる。春節を迎えるため、中国人観光客が増える時期であるため、影響が大きくなることを懸念している。
	▲	司法書士	・相続登記は多いものの、新築や売買などの不動産登記の受注件数が落ち着き始めたことから、今後の景気はやや悪くなる見通しである。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・企業の採用活動は、年明けから再開されるとみられ、3月決算に向けて、業績拡大のための人材ニーズが増えると見込まれる。ただし、人材と企業のミスマッチはますます顕著になっている。人材側はすぐに転職できると安易に考えているようだが、企業が求めるスキルは高く、妥協することもないため、人並みのスキルでは採用に至らないとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・本来であれば、年末商戦を迎える時期であるが、小売業の元気がないことから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少要因が継続しているものの、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
	□	職業安定所（職員）	・当地の10月の新規求人数は前年を7.3%上回り、2か月連続での増加となった。一方、月間有効求人数は4か月ぶりに前年を上回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・物価高や資材価格高騰、人件費増加など企業の景気が上向くような要素が見当たらない。消費者も、必要な物は購入するが、節約志向の高まりから、し好品の購入を控えているため、消費が拡大するとは考えにくい。これらのことから、今後も景気は変わらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・11月に入っても人手不足の企業が多いものの、採用にはつながっていないことから、今後も景気は横ばいで推移することになる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・経済は動いているのかもしれないが、円安と物価高が改善しない限り、中国人を除いたインバウンドが堅調に推移したとしても、国内の個人消費は落ち込むことになる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・年明け以降、中国人観光客が大幅に減少するとの見込みが広がっている。団体客の減少や高付加価値消費の落ち込みは避けられないことから、宿泊、飲食を中心に影響が出てくることが懸念される。
	×	—	—